

全国のゴルフレッスンプロ1千人を道連れにして2017年に破産した「ゴルフスタジアム」の「事件」で、「かぼちまの馬車」におけるスルガ銀行の役割を果たしたのが、大手信販会社8社。中でも三菱UFJフィナンシャルグループ（MUFG）のジャックスとゴルフスタジアムが「ただならぬ仲」にあることが、明らかになった。

「ヤバイ案件」を押し付け？
 堅実経営で知られるジャックスが悪徳商法の片棒を担ぎ、MUFGの恥部になりつつある。ゴルフスタジアムはレッスンプロに「広告を掲載させてくれれば無料でホームページを作成する」と持ちかけ、その過程でスイング解析ソフトを300万円から1千万円で売りつけた。17年2月に広告料の支払いが停止し程なく同社は経営破綻した。クレジット契約を結んだレッスンプロ約1千人が背負った負債額は総額40億円。返済不能で自己

が返ってきた。ホームページ作成のサービスがなくなり、何百万円もの借金だけを背負わされた現状を「豊かで満足感のある生活の実現」と言われたのでは、プロたちは立つ瀬がない。ジャックスのOBが指摘する。
 「10万円の家電製品の割賦に比べ、300万〜1千万円と値の張るゴルフスタジアムの商品は手数料も大きい。そりゃあ感謝の一つもするでしょう」
 ジャックスから見るとゴルフスタジアムは「大切なおお客様」だった。「社長同士も親密だったから、感謝状を贈ったのでは」という質問に対する回答は「進星先は営業担当窓口を中心として選定されており、板垣が選定プロセスに関与した事実はないと思います。板垣が堀氏に会った事実はありません」だった。
 「ゴルフスタジアムの信用調査（財務内容）をしたか」
 「販売しているソフトウェアの内容を精査したか」
 これらの質問に対してジャッ

破産したプロもいる。被害者614人で作る「ゴルフスタジアム被害者を守る会」はジャックス、オリコ、クレディセゾン、セディナ、ビズネスパートナー、三井住友トラスト、東京センテ

三菱UFJの恥部「ジャックス」悪徳融資

板垣社長が、あのゴルフスタジアムの堀社長に感謝状。「詐欺」と知って組んでいたのなら犯罪だ。



掲げ句の果てに感謝状まで！

ユリーリース、三菱UFJリースの信販会社8社を相手に債務不存在の確認を求めて集団提訴を起こしている。契約件数が最も多いのがジャックスだ。
 ゴルフスタジアムが「ホームページの作成」と称してスイング解析ソフトを売り始めたのは07年ごろから。1件当たりの契約単価が300万〜1千万円と

大きいこのビジネスは手数料収入が多く、信販会社にとって「おいしい仕事」だった。しかし11年にはMUFG「譜代」の信販会社、三菱UFJリースがゴルフスタジアムとの取引をやめている。入れ替わりでゴルフスタジアムとの取引を増やしたのが「外様」のジャックスだ。
 「ヤバイ案件」と分かるや否や「三菱」の名を冠する三菱UFJ

Jリースには手を引かせ、外様のジャックスに押し付けたようにも見える。そしてジャックスはゴルフスタジアムとの取引にのめり込んでいく。
 筆者はゴルフスタジアムとジャックスの蜜月ぶりを示す証拠を関係者から入手した。14年4月15日付で、ジャックスの板垣康義社長がゴルフスタジアムの堀新社長に贈った「感謝状」だ。「貴社は当社消費者信用サービスを活用されお客様の豊かで満足のある生活の実現に貢献されるところに当社の発展に多大なる貢献をなされました。よって当社創業六十周年を迎えるにあたりその功績を讃え深く感謝の意を表します」（太字は筆者）
 感謝状が本物かどうかジャックスに確認したところ「感謝状を発行したことは事実でございます。感謝状の発行は、弊社『60周年記念事業』の一環として企画され、当時（14年）取引関係にあった加盟店へ進呈されていたございました」という返事

クスは「現在、係争中の案件につきコメントを差し控えていただきます」という逃げ口上を並べ立てた。しかし「現場ではこんなやり取りがあった」と被害者の一人が打ち明ける。
 「ゴルフスタジアムの営業がタダでホームページを作ってくれ」というので契約しました。しばらくするとジャックスの女の人から電話がかかってきて「モーション・アナライザー3（MA3）のご購入でよろしいですね」というので、私は「違う。僕が契約したのはホームページの作成だ」と言いました。向こうは困った様子で、いったん電話が切れました。数分後、今度はゴルフスタジアムの営業から電話がきて「ちゃんとホームページはタダで作るから、MA3を買ったことにおいでくれ」と電話がきて、その後、もう一度、ジャックスから確認の電話がきた。
 ジャックスのOBが解説する。「最初に電話してきたのはジャ

ックスの審査部ですね。被害者に「違う」と言われ、彼女はジャックスの営業に相談した。ジャックスの営業が被害者に電話をして「大丈夫だから」と被害者をなだめ、もう一度、彼女に電話をさせた。彼女が「この取引はおかしい」などと言おうものなら、営業に「稼いでもいなくせに偉そうなことを言うな」とどやされるのが関の山。ジャックスの営業は厳しいノルマが課されているから、危ない橋も平気で渡る。審査部門にそれを止める力はありません」
 詐欺商法のお先棒を担ぐ
 このエピソードは、ゴルフスタジアムの商法についてジャックスが「怪しい」と気づくチャンスが何度もあったことを示している。しかしジャックスは営業の数字を上げるため突き進み、社長の板垣は堀に感謝状まで渡してしまっただけである。
 ゴルフスタジアムが倒産した後のジャックスの対応にも不目

然なところがある。割賦の対象になった商品を回収した痕跡がないのだ。自動車や住宅ローンが届け付いたとき、債権者はまず現物を差し押さえる。債権回収の足しにするためだ。
 なぜジャックスは300万〜1千万円で売ったMA3を回収しようとしなかったのか。再びOBが解説する。
 「そのソフトウェアに価値がないことを知っているからではないでしょうか。わざわざ債務者のところまで回収に向いても、人件費や交通費がかかるだけです」
 裏を返せば、ジャックスは最初からMA3が「無価値」と知りながら、それを300万〜1千万円という法外な値段で売るゴルフスタジアムのお先棒を担いでいた。掲げ句の果てに「感謝状」である。「詐欺商法」と知って組んでいたのなら犯罪だ。ジャックスがMUFGの恥部になりつつあるのは間違いない。 ②
 編集部 大田 隆之 ジェイリース